

CD版  
全6巻

# 人生を支える 仏教のことば

いまを生きるすべての人に贈る、人生の支えとなる杖ことば。仏教の世界には、こころにそつと寄り添い、支えとなるあまたのことばや教えがあります。いにしえより、多くの人々がそれらによつて救われてきました。現在も大切にされている意味深いことばの数々を、仏教界に精通する現代の名僧6人が解説する講演CD集です。

## 第一巻 (65分) 人間を経営する



「工人の非を責めず、己の不徳を思え。」

講師 松原泰道

1907年東京都生まれ。1972年に出版した「般若心経入門」は記録的ベストセラーとなり、第一次仏教書ブームを作った。2009年遽化。

本来仏教語である「経営」という言葉。それは「修行」という意味を持つ。また、禅語では労働のことを「作務」と言い、この場合の務めとは人のためにするものである。人間として成長し、人に施しを与え幸せにさせることが「経営」である。経営者のみならず、人間として生きていくうえで心に留めておくべき言葉を松原泰道が語る。

## 第二巻 (62分) 孤独を生き切る

人間は生まれてくるときも死ぬときも一人である。それは釈迦や一遍上人など優れた宗教家にも言えることである。孤独を生き切るには、瓜

## 第二巻 (64分) 自己を開発する



「いのちというものは身心ひとつでできている。」

講師 奈良康明

1929年千葉県生まれ。現在、駒澤大学名誉教授。著書「自尊との対話―仏教と人間―」など。

「いのち」を燃焼させて生きるプロセスこそが理想的な自己実現の姿である。そのためには、反省と努力が大切である。また、他の人々と関わって生きていく社会の中では相手に対する慈悲心が大切で、慈悲の眼差しで相手に関心を持つて接すれば、自分にも同様のことがかえつてくると言う。

## 第四巻 (59分) 驕る心を戒める

仏教界では、この世に存在する物はどんな物でもそれ自体で存在する物はひとつもないとし、それを「縁起」で呼ぶ。そして人間も会土ら、水遠下成なるのま